

国際化学肥料ニュース (2017年12月)

肥料業界の2017年12月動態

- * 中国国家统计局の速報によれば、10月の中国化学肥料生産量 542.7 万トン（純 N,P,K 換算）、昨年同期より 6.4%減である。窒素肥料、特に尿素生産量が 12.6%減、りん酸肥料生産量が 0.2%減、加里肥料生産量が 4.2%増である。
- * 中国税関の速報によれば、2017年10月中国の化学肥料輸出量が 18.3%減の 197 万トン、金額 5.29 億ドル。硫安、塩安、MAP 及び NP 化成肥料の輸出が大幅に増えたが、尿素と DAP の輸出減に叶わなかった。一方、10月の化学肥料輸入量が 18.6%増の 83 万トン、金額 2.12 億ドル。主に塩化加里の輸入増である。
- * 中国政府が国内化学肥料の大幅な値上げに対して、メーカーに出荷制限や生産調整を通して価格を吊り上げる行動が許さないと警告を発した。但し、専門家は値上げの根本的な原因は環境検査など政府の規制で設備の稼働率が落ちて、生産量不足にあると指摘している。
- * りん安価格の上昇が止まらない。1月出荷のサウジアラビア産 DAP の FOB 価格が 400 ドル/トン、モロッコ産 DAP の FOB 価格が 410 ドル/トンの模様。また、オーストラリア産 DAP の CFR パキスタン価格が 425 ドル/トンに達し、アメリカ産 DAP の FOB タンパー港は 385 ドル/トン、ロシアも FOB375~385 ドル/トンでヨーロッパに MAP と DAP を輸出している。
但し、DAP 最大の輸入国インドでは、政府の補助金制度では、CFR410 ドル/トンが限界で、それを超えると輸入商社が赤字となる。従って、インド側はりん安の輸入を減らす動きがある。
- * 12月上旬、インド肥料連合会の年次大会がニューデリに開催された。主な議題は化学肥料の国際相場高騰の対応と国内の新肥料補助制度である。
化学肥料の価格高騰に対して、国内尿素とりん安の生産量を引き上げることで対応するが、りん安の原料となる粗りん酸はほぼ全量モロッコからの輸入である。第4四半期の粗りん酸契約価格は CFR インド 570 ドル/トンであるが、来年からの値上げが必至で、一部の推測では 60 ドル/トン以上の値上げとなる。会議にはモロッコ OCP 社は来年の価格を表明しなかったため、不安要素が残る。
一方、インド政府の化学肥料新補助制度は2018年3月から全国に広げる予定である。現行の補助制度に比べ、透明度が高くなるが、メーカーと輸入商社にとっては補助金の

入金は2~4ヶ月遅くなり、手持ち現金に不安が残る。また、補助金額に上限があり、高い輸入価格の場合に赤字になる恐れがある。一部の輸入商社はDAPの輸入価格がCFR375ドル/トンを超えると、赤字になるとも表明した。

会議に於いて、インド政府の化学と肥料大臣 Ananth Kuma 氏は国内の化学肥料生産を促進するため、輸入アンモニアとりん酸に徴収している商品とサービス税（GST）を引き下げる用意があると表明した。

* 中国国内の尿素が高値で持続しているため、中国商社が外国から廉価の尿素を輸入する動きがある。12月には中東オマーンから2船計5万トン尿素を広東省に輸入することが確認された。CFR価格は235~240ドル/トンといわれる。また、ロシアから約6万トン尿素の輸入契約も締結された。イランとの間にも尿素の輸入に関する商談が行っている。中国の厳しい環境検査及び天然ガス不足により、12月8日現在、尿素メーカー104社の稼働率が47.38%しかなく、来年春季の尿素不足の恐れがあり、外国からの輸入でも採算が取れる見通しとなった。

* 大手加里メーカーの減産姿勢により、粒状塩化加里は値上げが続いている。11月8日現在、CIFアメリカ New Orleans 価格が11月末より3ドル/トン高くなり、247~257ドル/トンとなった。ブラジルのCFR価格も280~285ドル/トンであるが、ロシアのUralkaly社は2018年1月ブラジル向けの粒状塩化加里について、CFR295ドル/トンを提示している。

また、ヨーロッパ市場でも粒状塩化加里が年初の230~245ユーロ/トンから10月末に260~265ユーロ/トンに上昇し、来年1~3月にはさらに5~10ユーロ/トンの値上げを見込んでいる。東南アジアのタイとベトナムは現在CFR280~290ドル/トンであるが、来年1~3月に295ドル/トンを超えると予測している。

* 12月中旬、中国商社がイランから6万トン尿素を輸入する契約を締結した。2018年1月中国に到着する予定。また、中国商社は引き続き2018年3月までに輸入できる小粒尿素と大粒尿素を探している。

* 12月15日、中国政府は2018年の関税改訂案を公表した。化学肥料の輸出関税については、尿素、りん安は引き続き無税で、塩化加里と硫酸加里は現在と同じ600人民元/トンの輸出関税を維持する。NKP化成肥料については現行の30%輸出関税から100人民元/トンに引き下げる。詳細は添付の「2018年中国関税調整案」及び2012~2018年化学肥料輸出関税対比表」をご参考ください。

- * 12月16日、インドNFL社が尿素公開入札を発表した。12月22日開札、予定購入量50～60万トン。このニュースを受け、低迷している尿素の国際市場価格が高騰に転じた。12月19日現在、インドネシア大粒尿素のFOB価格272ドル/トン、エジプト大粒尿素もFOB270ドル/トン、ブラジルCFR価格も280ドル/トンを超えた。
- * インドの2018年第1四半期の粗りん酸輸入契約について、モロッコOCP社はインド側が提示したCFR640～650ドル/トンを拒否した。モロッコ側はCFR700ドル/トンにするよう逆提案した。なお、2017年第4四半期の粗りん酸契約価格はCFR570ドル/トンである。
- * 中国の厳しい環境規制と天然ガス不足で、尿素生産量が急減した。中国商社は来年春季に尿素が不足を見込み、2017年12～2018年1月にオマーンとイラン、ロシアから25万トン超の尿素を輸入することが確認された。最新の契約価格はFOBオマーンSohar港240ドル/トンで、約20ドル/トンの海運賃を加えても、採算が取れる見通しである。なお、国内供給を優先するため、2018年1～3月の中国尿素輸出が途絶える可能性がある。
- * 中国窒素肥料工業協会の発表によれば、2017年に新規尿素プラントの稼働がなく、逆に尿素設備の休止と廃棄が進み、合計500万トンの設備が休止され、190万トンの設備が廃棄された。その影響で、窒素肥料メーカーが30社減少し、250社になった。
また、12月12日現在では環境規制と天然ガス不足で、中国の尿素実生産量が11.81万トン/日で、前月より2.6万トン/日の減産である。このままで行くと、2017年の尿素生産量が約5450万トン、2016年の6192万トンより742万トン減少する見通し。
- * 中国化学工業会化学肥料分会の担当者発表によれば、2016年末の中国可溶性加里資源量がKCl換算で10.57億トン、そのうち採掘可能量5.62億トンである。また、2017年の加里肥料生産能力916万トン（K₂O換算）、2016年より14.4%増加した。そのうち青海塩湖、蔵格加里肥料の2社が塩化加里生産能力の62.7%、国投ロプノール加里塩1社で硫酸加里生産能力の42%を占め、寡占が進む。
また、2017年加里肥料生産量が約635万トン（K₂O換算）、青海塩湖、蔵格加里肥料の2社が塩化加里生産量の89.0%、国投ロプノール加里塩が硫酸加里生産量の65%を占める。
- * 塩化加里の市況が好転している。12月中旬東南アジア向けの塩化加里粉品のスポットCFR価格が255～265ドル/トン、粒状塩化加里のスポットCFR価格が290～300ドル/トンに上昇した。但し、2018年トルクメニスタンに1鉱山、ロシアに2鉱山の完

成と稼働が確実となり、下期から塩化加里の供給過剰に陥る可能性があり、市況が軟化するだろうと予想される。

- * アメリカはフロリダ州にある Mosaic 社の生産能力 170 万トンのりん安工場を年内に閉鎖することを受け、国内需要を満たすため、りん安の輸入量が急増する。1 月にはモロッコから 15~25 万トン DAP と MAP、ロシアから 4 万トン MAP、セネガルから 2.5 万トン DAP の輸入が確定された。特に初めてアフリカのセネガルから DAP を輸入し、その価格は FOB380 ドル/トン、海運賃を加え、CFR アメリカ約 405 ドル/トンである。また、ロシアの EuroChem 社からも DAP を購入する予定であるため、1~2 月のりん安輸入量が 28.5~33.5 万トンに達する見通しである。
- * 12 月 16 日発表、22 日開札されたインド NFL 社の尿素入札は、応札量 88.2 万トン、最低応札価格は WCI 社の CFR 西海岸 259.02 ドル/トンと ECI 社の CFR 東海岸 263.03 ドル/トンである。今回の入札の特徴は、中国産尿素の応札がなく、全量中東とイラン産のものである。また、応札価格は 11 月 7 日開札、17 日キャンセルされた前回の尿素入札に比べ、約 40 ドル/トン安くなった。NFL 社は 50~60 万トンを購入する予定。
- * 中国税関の速報によれば、2017 年 11 月中国肥料輸出量 214 万トン、そのうち尿素 37 万トン、DAP53 万トン。また、11 月の肥料輸入量 82 万トン、そのうち塩化加里 73 万トン、NPK 化成肥料 7 万トン。
- * 12 月に入って、環境規制と天然ガス不足で、尿素の生産が抑制された。その影響を受け、中国国内尿素価格が急騰した。12 月 9 日からの 3 週間だけで、主力産地のメーカー出荷価格が約 20% も上昇し、2000 人民元/トンを超えた。広東省など尿素メーカーのない地域では、置場渡し価格が 2200~2250 人民元/トン(約 336~344 ドル/トン)、2007 年リーマンショック前以来の高値となった。
- * バンクラディッシュ新聞の報道によれば、天然ガス不足で、バンクラディッシュ政府は国内肥料工場への天然ガス供給を期限付きで停止した。国内肥料需要を満たすため、急遽 22 万トン化学肥料の公開入札を予定である。

大手各社の営業業績

- * チリ SQM 社が第 3 四半期の業績を公表した。主力製品塩化加里と硫酸加里の販売量が 12.4%減の 40.61 万トン、売上高 1.13 億ドル、昨年同期とほぼ同じである。リチウム事業などが順調で、純利益が倍増の 1.129 億ドル。なお、2017 年の加里肥料販売量が 130 万トンを超える見通しである。

- * モロッコの OCP 社が第 3 四半期の業績を公表した。1～9 月売上高が 13%増の 36.8 億ドル、粗利益が 9.5%増の 24.1 億ドル。りん酸肥料とりん酸塩製品の輸出が順調で、1～9 月のりん酸肥料輸出量が 22%増の 600 万トン、りん酸塩製品の輸出量が 7.1%増の 150 万トン。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 12 月 18 日、デンマークの Haldor Topsoe 社は、アフリカのアンゴラ Zaire 州 Soyo 市に化学肥料工場を建設すると発表した。Haldor Topsoe 社の Bjerne Clausen 会長がアンゴラ大統領との会談後に正式に発表したもので、投資総額約 20 億ドル、年間生産能力 200 万トン、建設期間約 3 年という計画である。
- * トルクメニスタンの Garlyk 加里鉱山が 2018 年第 1 四半期に完成し、稼働する。生産能力は塩化加里 140 万トン/年。当該鉱山の開発には中国資本が参加し、中国企業が受注建設した。
- * ロシアの EuroChem 社は Usolskiv 加里鉱山の第 1 期工事が 2018 年第 1 四半期に完成し、稼働すると発表した。第 1 期工事の塩化加里生産能力 230 万トン。また、VolgaKaliy 加里鉱山の建設も順調で、2018 年下期から順次に稼働する予定である。この 2 鉱山が EuroChem 社の最初の加里鉱山で、2024～2025 年には年間 830 万トン塩化加里を生産することが可能である。

その他

- * 中国加里肥料業界協会の統計データによれば、2000～2015 年間に中国加里肥料生産能力の年間増加率が 17.3%で、2017 年 8 月現在の資源型加里肥料生産能力 1125 万トン、その内訳は塩化加里 803 万トン、硫酸加里 287 万トン。2016 年塩化加里生産量 752.1 万トン、硫酸加里生産量 239.4 万トン、硫酸加里苦土生産量 29.2 万トン、カナダ、ロシア、ベラルーシに次ぎ、世界第 4 位の加里肥料生産国となった。
- * カナダの PotashCorp 社と Agrium 社は共同で声明を発表し、両社の合併計画がすでにブラジル、カナダ、中国、インドとロシア政府の承認を得ている。年内にアメリカ政府も許可するだろうということである。アメリカ政府の承認を得られれば、2017 年末に合併が始まり、2018 年内に完了することである。
- * イスラエルの ICL 社は消防薬品と石油製品添加剤の 2 部門を 10 億ドルで投資ファンドの SK Capital に売却することになる。売却の動機は、借入金を減らし、会社の基盤を

固め、得意の肥料事業に集中するとのことである。売却は政府の許可が必要で、許可されれば、2018年上半期に完了する予定。

- * 12月27日、アメリカ国際貿易委員会はカナダの PotashCorp 社と Agrium 社の合併申請を許可した。そのことを受け、PotashCorp 社と Agrium 社は2018年1月1日に合併を行うと発表した。

2016年9月12日、PotashCorp 社と Agrium 社は両社合併の計画を発表した。合併後、新会社が世界最大の加里肥料メーカーと販売会社になるが、独占禁止法の規定では、カナダ政府だけではなく、主な輸出先国政府の許可も必要である。今まで、ブラジル、カナダ、中国、インドとロシア政府の承認を得ている。アメリカ政府の許可を得て、合併を妨げるすべての障害を取り除いた。

合併後の新会社名は Nutrien、PotashCorp 側が約 52%、Agrium 側が約 48%の株式を持つ。株式の市場総額が約 360 億ドルとなる。

- * 12月27日、エジプト政府は2018年から窒素肥料の輸出に対して125 エジプトポンド（約7ドル）／トンの輸出関税を徴収し、暫定徴収期間が1年と発表した。エジプトは中東有数の尿素輸出大国で、2016年農業年度（2015年11月～2016年10月）尿素輸出量330万トン、2017年農業年度の尿素輸出量360万トンである。